

## 自己評価結果(放課後等デイサービス)

討議年月日: 令和3年 2月 15日

公表日: 令和3年 2月 26日

事業所名: チャイルドウィッシュありまつ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点,改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		
	2	職員の配置数は適切である	○		基準に基づいて配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	今後必要に応じて対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		スタッフミーティングを行い子どもの現状や、今後どのように支援していくかの共有をしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		集計結果をみて、改善すべき点などスタッフ間で話し合い実践している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	必要があれば、検討していく。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に開かれる研修に参加している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		スタッフ間で話し合いをした上で、保護者や子ども自身の意向も取り入れながらより良い計画の作成に努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々の活動やイベントの候補など、スタッフで案を出している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもたちのやりたいことや、季節ならではの遊びを提供できるよう努めている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	一日の生活リズムは一通りきまっているが、きめ細やかに設定は出来ていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子ども自身でしたい活動を選べるよう、様々な遊びを提供できるよう準備している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の子どもによって支援内容や連絡事項などの確認、共有を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援に対する反応や、それに踏まえた反省点などを話し合い次回の支援から活かせるように努めている。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		良かった点、悪かった点共に共有しやすいよう、わかりやすく記載している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者やスタッフ間、必要に応じて子ども自身からも要望を聞き計画の見直し等している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		普段から子どもとよく接しているスタッフが参加し、深く情報共有が行えるようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		子どもの引き受け時に、学校での様子や変わったことなどを伝えてもらうなどし情報共有に努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		今後必要があれば行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		より良い支援が受けられるよう、必要に応じて情報提供を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		日頃から専門機関の方と連携を取るようし、助言など受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		コロナが落ち着いたら、また利用したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		同じ区内の様々な事業所との連携を図り、情報の共有をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時などその日の様子や周りとの関わりなどを伝え、事業所と保護者間で共通意識を持てるよう努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		困った時の助言は行っているが、支援としては行っていない。
保護	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時を始め、問い合わせにもその都度応じ納得して頂けるよう努めている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時に直接や、電話などでお話を聞き理解者になることに努め助言など行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		以前はママ会と称して保護者が集まる機会を設けていたがコロナ禍ということで現在は開催していない。

護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		スタッフミーティングを行い、見直しや改善すべきことに対してスムーズに対応できるようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		イベントや事業所内での取り組みの様子、今後の予定などを会報として学期毎に発行している。
	35	個人情報に十分注意している	○		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		文字や絵等、目からの情報が活動しやすいなど、子どもに合った伝達方法を見つけ実践している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナが落ち着いたら検討したい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルとしてはあるが、保護者周知には至っていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に一度防災訓練を行い、避難経路の確認や災害が起きた時に取るべき行動などを話し合っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		スタッフ間で事前に話し合い、共通認識をした上で必要に応じて保護者や子どもに説明をし計画に記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		当日中に記入することや、スタッフミーティングでの議題として取り上げ共有している。